



# 被災地を訪れて

兵庫県赤石おやこ劇場所属 高校3年 谷藤 真

私は高校1年生の時から毎年「杜の子まつり in 仙台」に参加していて、今年で仙台に来るのは3回目になります。仙台には3日間滞在し、杜の子まつりへの参加以外にも児童館で子どもたちと遊んだり、荒浜小学校や閑上地区の見学、仮設住宅への訪問などたくさんの体験をしました。そこでは毎年さまざまなことを感じます。一番強く印象に残るのは、やはり震災の被害の大きさです。現地を訪れることにより、被害の大きさを体で感じます。これは初めて仙台を訪れた時から強く感じたし、3回目となった今年でもそれは変わりません。しかし、今回はそれだけではなく、3年間来たからこそ思ったこともたくさんありました。

まずは、この3年間で復興が確実に進んでいるということを感じました。特に、沿岸部は変化をはっきりと感じられました。荒浜小学校は、私が仙台を初めて訪れた2017年3月の段階では、中に入ることができずに外から建物を見ることしかできませんでした。しかし、今では震災遺構となっており建物の中に入ることができます。外から見学するだけでも津波によって折れ曲がった手すりなどとても大きな被害を感じましたが、中に入ると外から見ただけではわからなかった部分が多くありました。さらに、当時の小学校の状況や震災前の荒浜の町の様子など、建物だけではなく被災された方の思いやメッセージも感じることができました。これらは初めて訪ねた時にはわからなかったの、今回訪ねた意義をととても感じました。

また、県道に沿ってあるかさあげ道路の工事が進んでいるのがわかりました。初めて仙台を訪ねたときにはかさあげ道路はあまりできて

おらず、小高い丘のようなものがぼつぼつとあるだけで道路ができるということはわかりませんでした。しかし、今ではかさあげ道路はほぼ完成しつつあります。何もなかったところに道路が完成したこの変化は、3年間来たからこそ強く感じとれたものと思います。

震災被害の復興以外にも、今回の活動で強く感じたことがあります。それは、人の繋がりで。毎年、私たち兵庫県の高校生は、杜の子まつりで仙台市のジュニアリーダーとの交流会を行なっています。たった1日一緒に過ごしただけですが、お互いに様々なことを話してとても仲が深まったと思います。また、私は3回目の参加だったので、昨年や2年前の交流会で出会った人とも今回の杜の子まつりで再会できました。1年ぶりや2年ぶりに会ったので、久しぶりに話すことができるととても嬉しく思いました。私はこれほど離れた地域の人と仲良くなることは無かったので、ここで出会えた繋がりは大切にしたいと感じました。

今年は3回目の仙台訪問でしたが、来るたびに新しいものを感じます。このような経験ができることはあまり無いので、この先も続けて行きたいと思います。

